

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 古川 建三

# JR東労組

# 本部OB会

# ニュース

No.200 2014年 6月発行

## 「本部OB会ニュース」

## 200号の歴史積み重ねる

### ～ 歴代会長及びOB担当から激励の言葉を頂く ～



挨拶する古川会長

「本部OB会ニュース・200号」発行を迎えることができました。歴代事務局の皆さんの努力の結晶であり、大変ご苦勞様でした。私が会長に就任して一年二ヶ月が過ぎようとしていますが、ニュース発行は185号からであり、如何に200号の積み重ねの年月が大変なものか知ることができません。200号の発行を全ての会員と共に喜びたいと思います。

本部OB会は、この間諸先輩の皆さんのご支援に助けられ、第18回定期総会を無事終了させることができました。総会では安倍自民党政権の戦争政策に反対しながら、超高齢化社会の中で元気に生活していけるのか、「たしろかおる参議院議員」との連携強化をするために何をすべきなのか等、委員の発言の中に苦悩を感じることができました。また、国鉄改革を経験した立場から、今現役に仕掛けられている東日本会社による「組合無視政策」に怒りの声も多数発せられ、「OB会はしっかりと現役と連帯しろ」と叱咤激励を頂きました。

さらにもうひとつ本部OB会としての大きな課題は、OB会の組織強化拡大があります。レクリエーション活動の活発化や営業職場出身OBの会員拡大と合わせ、地に足つけた運動を展開することが求め

られています。全体的に地域に足を持たないOB会の弱点を克服するためにも、OB会ニュースの定期発行は大切です。今後とも会員に愛されるニュースにするために、会員が登場する紙面づくりや各種問題の核心点を記事にする努力を行ない、300号を目指していきます。

さて、日本国憲法は施行から67年を迎えましたが、今ほど憲法の危機が迫っていることはありません。今まで改正は一度もありませんでしたが、政権に都合よく解釈を繰り返してきました。ここに来て安倍政権は、集団的自衛権行使を容認する「解釈改憲」を強く主張してきています。断じて認められません。なぜなら戦争行為を是認することであり、他国の戦争に巻き込まれていくことを意味するからです。福島県民の立場から、いま一番大切にしたいいただきたいことは、憲法13条にあるように、「生命・自由及び幸福追求に対する国民の権利については最大の尊重を必要とする」として、これを保障することです。原発事故で苦しんでいる県民に、政治は一日も早く応えるべきでしょう。

本部OB会は今後も活発に運動を展開し、社会に向かってしっかりと正論を主張してまいります。OB会員の皆さん、更に「本部OB会ニュース」の300号発行を目指して、健康で笑顔で毎日を過ごしましょう。



### 第一号以降の主な紙面

「本部OB会ニュース」第一号発行は1998年1月です。発行にあたって初代の飯塚会長が当時のOB会の現状に触れています。「本部OB会も結成して半年が過ぎました。(略)今日までに7地方本部の結成と3000名の会員数・・・」と。その時から「本部OB会ニュース」が歩んできました。その後4年を経た2003年3月に50号が発行されています。その最初の記事は、えん罪浦和電車区事件の「第一回公判報告集会」がメルパルクに、1500名を集結して開催された報告です。100号の発行は、OB会結成10周年にあたる2007年4月でした。当時の小澤会長は、「波乱万丈・苦節10年と言っても差し支えない歳月」と振り返っています。その頃には、会員数も7000名になんなんとしていました。歳月を重ね150号が出たのは、大熊会長時の2010年11月です。この号のトップ記事は、高退連の阿部事務局長から「高齢者医療制度」の講演を「拡大合同会義」で受けた報告が掲載されており、また、このころから会員の声を直接載せる「OB声の広場」や「エルダーの職場紹介」コーナーも掲載されています。このようにして200号まで積み重ねた「本部OB会ニュース」ですが、今後も全国のOB会員に支えられながら元気に明るく進んでいきます。





### 「今を生きる」

第二代会長 小澤 康秀 (81歳)

「本部OB会ニュース」200号おめでとうございます。

「理屈ばかり達者だ」と誹りを受けることを承知で、若い人にメッセージを送ります。

いつだったかOB会の席で名言を聞いたことがあります。「OBになって、いたずらに歳をとっただけで先輩面をしてはならない。その人間がどのように生きたかが問題だ」「人は一年一年歳をとるが、のんびんだらりと生きているだけでは、まさしく馬齢を重ねる類となる」というものでした。

先の都知事選に立候補した細川元首相は、自民党幹部から「殿ご乱心」と嘲笑を浴びせられたが、これに対して細川氏は、サミュエル・ウエルマンの「青春の詩」の一部を引用し、「歳を重ねただけでは人は老いない。理想を失った時に初めて人は老いる。歳月は皮膚の皺を増すが、情熱を失った時に精神はしぼむ。たとえ80歳、90歳でも世の中の不条理と闘う気力がある人は、10代、20代と変わらぬ若者である」と反論をしました。

現在私は、「労働者文学会」や、俳句の「さつき会」などに籍を置き、「三多摩9条連」代表等で頑張っています。

一昨年妻が脳梗塞で倒れ、「要介護」の認定を受けています。従って、通院の付添いから、炊事、洗濯など、主婦業もして多忙な毎日を過ごしております。

隠居老人になりきろうと考えた時期もありましたが、気が付くとあれこれ現役並みの日程が続く毎日です。そんな時、一句ひねったのが次の句です。

元日に 妻の下着を 干している

OB会の皆さん頑張りましょう！



### 「このようにしてOB会は出来た」

初代会長 飯塚 不二男 (75歳)

「本部OB会ニュース」が200号を迎えて喜びを感じると共に、時代の推移を実感しています。

現在の自分が存在するのは、松崎明氏を抜きにして語ることは出来ません。松ちゃんとの出会いは自分が23歳、松ちゃんが25歳の時でした。その後、40年以上も家族ぐるみのお付き合いをしてきました。松ちゃんは誰もが認めるように、仲間との絆を大切に人間関係を築いてきましたし、本当に信頼できる立派な指導者でした。

OBになった年に、横浜での本部大会に委員長だった松崎氏より案内がありました。喜んで参加したところ「お前、何故大会に参加してもらったかわかるか？」と聞かれました。そして「大会方針に何年も前からOB会を結成する方針を出しているが、未だに結成されていない、お前が責任を持ってOB会を結成してくれ」と言われました。

自分なりに全力で組織化することを決意して、東京を始め新潟、高崎、長野、仙台、水戸などを組織化しました。そして現在のOB会が確立されたのです。私はこの時の活動の教訓を生かして、今も各種ボランティア活動に参加し、充実した日々を送っております。

現在、会社から厳しい組織攻撃がかけられているが、マル生粉砕闘争を指導した松崎氏ならどんな闘いを組織化するだろうか。やはり仲間を信じて、組合員を組織化し全力で立ち向かうことでしょう。

組合員と共にOBもガンバリましょう！



### 「200号発刊に際して」

JR東労組本部OB担当 君塚 敏男

「本部OB会ニュース」発刊200号おめでとうございます。日頃からJR東労組の取り組みを支援して頂いて心より感謝を申し上げます。また「たしろかおる後援会」へOB会員の多くの皆さまに加入をして頂きました。ありがとうございました。

安倍政権は今、「戦争のできる国づくり」へ進んでいます。昨年末から「国家安全保障会議創設関連法」や「特定秘密保護法」の強行採決、さらに4月1日には「武器輸出三原則」を見直し実質解禁する「防衛装備移転三原則」を閣議決定し、さらに「集団的自衛権の行使」をめぐる「憲法解釈の見直し」の議論を行っています。私たちは戦争への道を絶対に許さず、国民主権の平和憲法を守りぬかなければなりません。

その為に、「たしろかおる参議院議員」は、平和な社会づくりと同時に、多くの職場や地域に足を運び、「えん罪のない社会づくり」や「大震災における鉄道輸送」と「被災地の鉄道の復旧」、そして「非正規労働者の雇用問題」や「鉄道労働者に対する暴力撲滅に向けた法整備」さらに「バスの安全問題や運転者の確保」などの活動を行なっています。この絶え間ない活動が多くの人々の心に響き、信頼関係を創りあげています。

次期参院選は、2年後に迫りました。JR東労組本部は、6月の定期大会で「全組合員1人10名以上」の紹介者を取り組むことを決定し、「たしろかおる」再選準備に向け奮闘していきます。この取り組みを通じて組織を更に強化し、「平和」「人権」「民主主義」を守り、そして年金制度をはじめ「福祉の充実」を共に実現させようではありませんか。



### 「継続の力 200号」

第三代会長 大熊 勝明 (70歳)

「本部OB会ニュース」が200号となり、心からお祝い申し上げます。私も6年間、発行に携わることができたことを誇りに思います。

2007年から会長職に就かせて頂きましたが、この期間中も大きな出来事や事件がありました。「エルダー制度」の導入、田城参議員の誕生、そして3・11「東日本大震災」と福島第1原発事故など、多くの出来事を「本部OB会ニュース」を通して発信してきました。

特に、津波により被災されたOB会員への「義援金」の取り組みに対しては、多額の義援金が集まりました。震災発生から2ヶ月後には、会員の想いを被災された会員に直接手渡すことができました。「仲間の絆」「労働者魂」が発揮された結果と言えます。

今、私たちを取り巻く社会状況には「怒り」がいっぱいです。特に安倍政権が進める「戦争の出来る国づくり」が、日本を守るという名目のもとに進められているからです。

今必要な緊急課題は、震災からの復興であり、一日も早い原発事故の処理でしょう！ましてや原発の再稼働など、もっての外です。

今、OB会の真価が問われています。それは2年後に迫った「たしろかおる」の2期目の参院選に勝利するかどうかです。「本部OB会ニュース」が果たす役割は、大きいものがあります。健康に気をつけて精一杯頑張りましょう。

